

入院中の犬・猫のための 給与ガイド

入院中の動物をいつ治療すべきか

食欲廃絶/食欲低下の期間（入院前に自宅で食欲廃絶/食欲低下があった期間を含む）



5日間: 栄養補助が必要！
経管栄養が経静脈栄養を行ってください。



3～4日間: すぐに食欲が回復しない場合は栄養補助が必要かもしれません。
患者に麻酔をかける場合は栄養チューブの留置を検討してください。



1～2日間: 給与に関する指示を作成し、毎日の食物摂取量と臨床状況を記録してください。

注：すでに患者に栄養不良が認められる場合は、血行動態が安定し次第、栄養補助を始めてください。

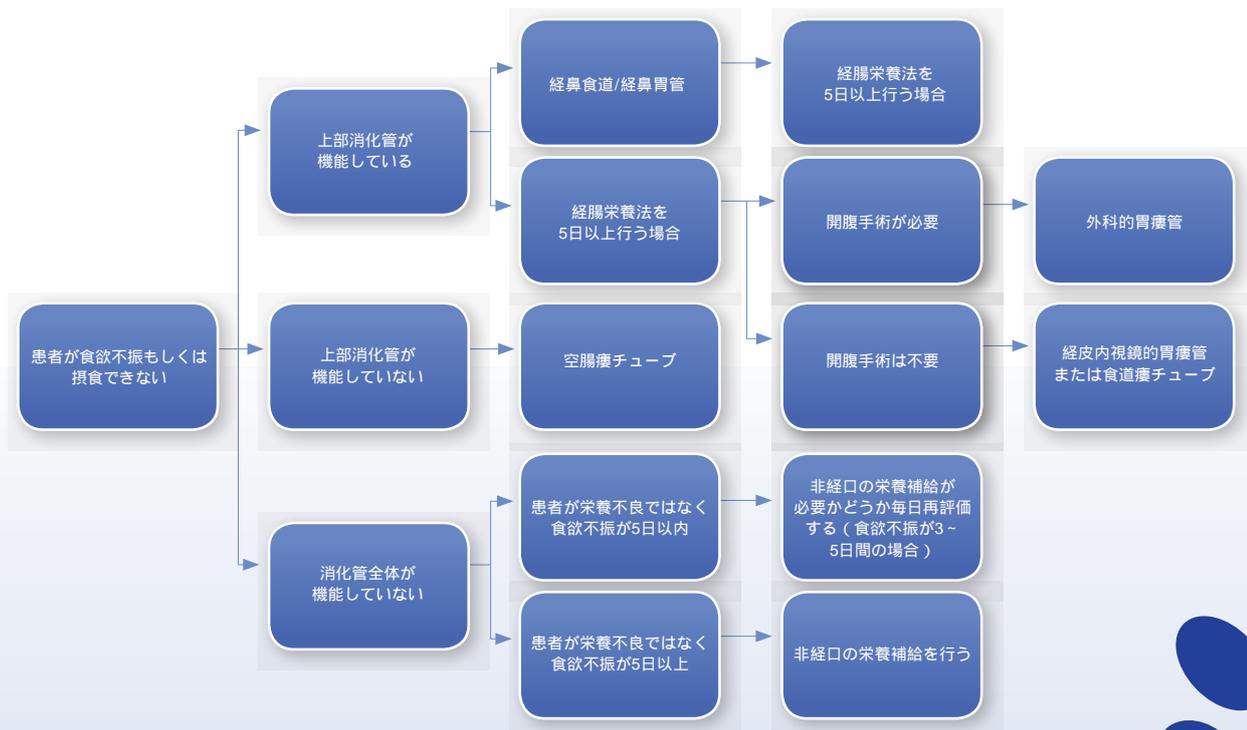
入院動物用の計画を作成する

給与計画を作成します（例：食事、経路、量および頻度）。安静時エネルギー要求量(RER)に達することが目標です。RERに達するまでに2～3日間を要する場合があります。

1. 摂食が可能な場合は、自発的な経口給与または誘導給与を試みてください。

具体的な給与指示書を作成します：「食品 X を4分の1缶分、経口で6時間おきに給与する」（食品名、経路、量、頻度）

2. 食物摂取量をモニタします。もし経口で適切な摂取ができない場合は栄養補助技術が必要になります。



体重* (キログラム)	安静時エネルギー要求量 (kcal/1日あたり)	体重* (キログラム)	安静時エネルギー要求量 (kcal/1日あたり)
1.0	70	15.0	534
1.5	95	16.0	560
2.0	118	17.0	586
2.5	139	18.0	612
3.0	160	19.0	637
3.5	179	20.0	662
4.0	198	22.5	723
4.5	216	25.0	783
5.0	234	27.5	841
5.5	251	30.0	897
6.0	268	32.5	953
6.5	285	35.0	1007
7.0	301	37.5	1061
7.5	317	40.0	1113
8.0	333	42.5	1165
8.5	348	45.0	1216
9.0	364	47.5	1267
9.5	379	50.0	1316
10.0	394	52.5	1365
11.0	423	55.0	1414
12.0	451	57.5	1462
13.0	479	60.0	1509
14.0	507		

*体重は実際の体重を当てはめるが、ボディコンディションスコア（体脂肪評価の指標）のスコアが7以上の場合は最適体重を当てはめること。